

新「道の駅」かんおんじ（仮称）の今後の進め方

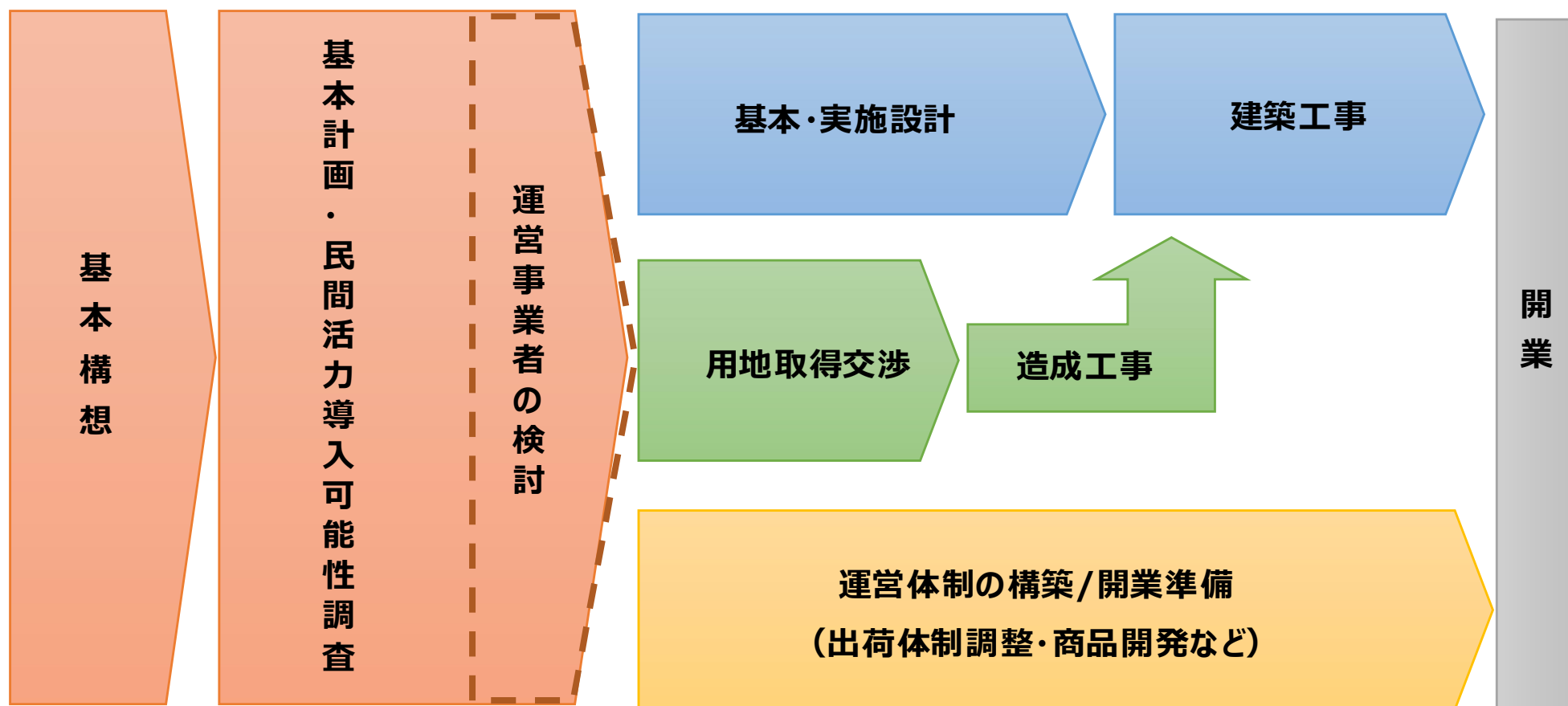
令和 6 年 2 月



1. 概略事業スケジュール（案）

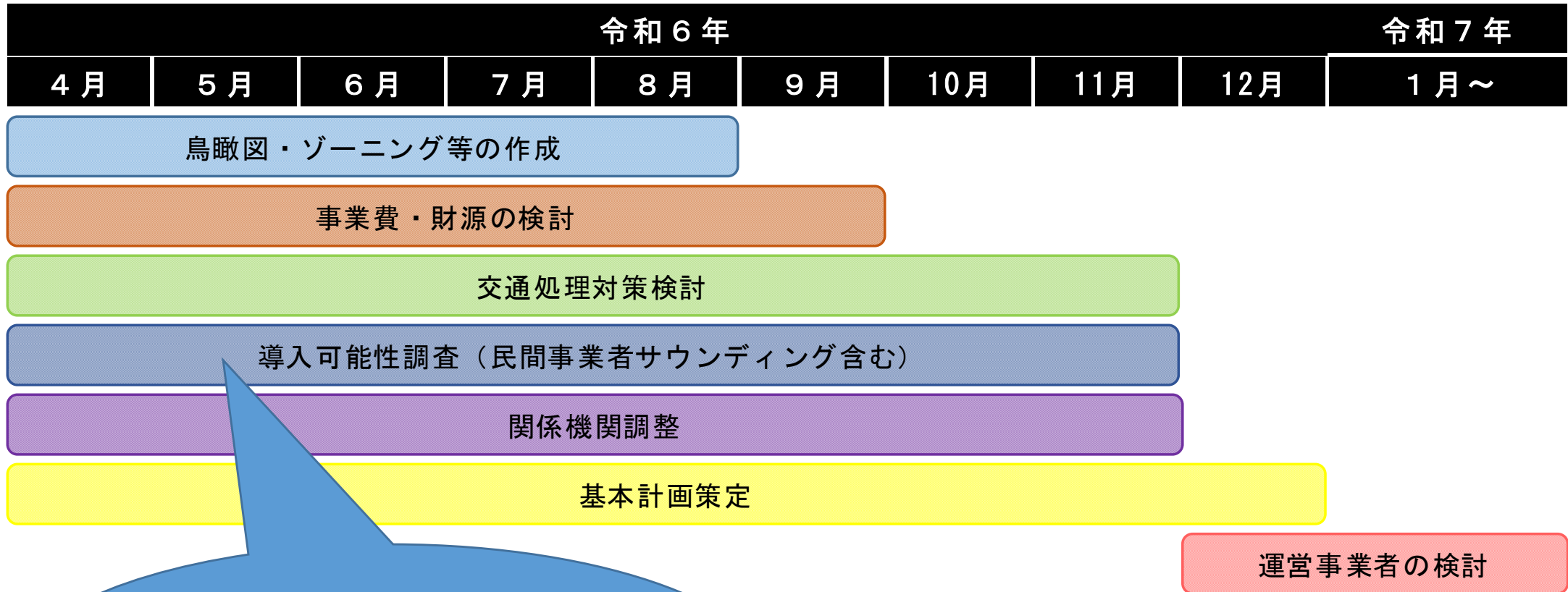
- 令和10年度中の開業を目指し検討を進めていますが、今後のスケジュールについて、次ページ以降で説明させていただきます。

令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)
-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	--------------------



2. 基本計画のスケジュール（案）

- 令和5年度は、主に新「道の駅」に導入する機能について検討してきました。
- 令和6年度からは、主に次のことについて検討を進めていきます。



ここで道の駅の運営事業者として携わってきたことのある事業者の意見等を踏まえて、導入機能案を変更する可能性があります。

3. 新「道の駅」の運営や活用方法

- 基本計画策定後、令和7年度から新「道の駅」をどのように運営、活用していくかを具体的に検討を進めていくことになります。
- 市が重視している「地域経済の活性化」や「市内周遊」に繋がる手法に加え、新「道の駅」内の店舗出店や商品の契約方法・納品方法など、様々なことを運営事業者と一緒に市内事業者様などの声を聞きながら決定していきます。

令和7年～

基本計画策定後

運営事業者の決定

地域経済活性化のために道の駅をどう活用する？

道の駅の機能を使ってどうやって道の駅に集まってきた人を市内周遊に繋げる？

どういう形で出店できる？商品を販売できる？

道の駅の特徴をどうやって出していく？

など様々なことを決定していきます。

(例)

- 新「道の駅」内の誰にでも目につく場所に、市内でのイベントやスポット、名店を派手に紹介し、市内の周遊に繋げる。
- インバウンド需要に対応するため、商品の説明や市内各所の案内を多言語化する。
- 新「道の駅」への来場や買い物によるポイントを付与し、市内のお店で使えるようにする。
- 太鼓台を使った差し上げ体験や中心市街地で神恵院・観音寺へのミニお遍路体験を実施する。
- 飽きがこないよう、季節毎に新商品や新メニュー開発に努める。

など.....